

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 古賀貞雄 編集者 西尾 達



平成27年度

1号

vol.109

理事長、副理事長あいさつ	2
保育協会理事会組織とメンバー	3
保育士会組織とメンバー	3
保育士会のページ	4
青年部活動紹介	5
新園紹介	6
叙勲表彰	6
リレー回想	7
「今、旬」	8

【写真を提供していただいた保育園】
(福岡市保育協会フォトクラブ)
内浜、しあわせの星、清水、信和、恵愛ソレイユ、豊庄保育園



「子ども・子育て新制度の問題点」はユーチューブ(You Tube)でご覧いただけます。
※PCだけでなくi-phone などのスマートフォンからも見る事ができます。

「新制度」の詳しい内容については

[ほいくせいど](#) [検索](#)

を、クリック!



理事長あいさつ

高美台保育園 園長 古賀 貞雄



各園の皆様方には、新園児の受け入れやその他の様々な運営面など

で多忙な日々をお送りのことと思います。日頃より保育協会の事業活動にご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

さて、今年には戦後70年目に当りますが、戦後の焼け跡の中から出生し子どもたちの保育を長きにわたり支えてきた児童福祉の制度も、今年4月から新たな姿に変わることになりました。この新制度によって、保育園が今後どういう役割を担うことになるのか、どういふ変遷をたどっていくのか不安な面も残っています。さらに、公定価格における施設間の格差や保育所保育指針と認定子ども園保育要領の違いがどう整理されていくのかなど、大きな問題をはらんでいます。

そもそも今回の「子ども・子育て支援新制度」の一方の大きな柱は「保育の質」を担保するため、職員の処遇の改善をはかり、人材の確保に努めることでした。しかし、この処遇面の改善は、3歳児の配置基準は改善されましたが、賃金面やキャリアアップなどの抜本的な処遇改善面は積み残しになっています。

現在、大きな課題となっている保育士不足・人材確保のことはずっと以前から全国的に問題になっていました。施設の整備は行われても、そこで保育する優秀な人材がいなければ保育園の運営は成り立ちませんし、先生たちの仕事への意欲や熱意がなければ保育内容の充実には繋がっていきません。その結果、子どもたちへの良質な保育環境を提供できないという悪循環になっていきます。児童福祉施設としての保育園は子どもが安心して安定した生活を送り、育ち合い学び合っていく場です。子どもたちがそこで育ち成長していく姿をみて、初めて保護者の方は安心して就労できます。また、経験豊かな先生たちが保育園にいるということが、保護者の方の安心感・信頼感に繋がっていきます。

新たな制度は、公定価格の中に今以上の職員の配置する費用を設け、保育の質の向上を目指しています。にもかかわらず、皆様ご承知のとおり福岡市は、公定価格の中に長時間保育手当に相当する費用が入っていると主張し、現在協会補助金の中の直接職員にわたっている処遇費(長時間保育手当)の大幅削減を提案しています。

保育士不足や保育の質向上・充実が国全体で取り組まねばならない最重要課題です。国も各自治体で保育士の処遇改善のための単独で補助している補助金が削減されることのないようにと一言通知を出しています。今回の提案は、そのうした国の政策に逆行するもの

で、保育士の処遇の低下、また今後の園の運営にも重大な影響を及ぼします。協会としても撤回を求め、全力をあげて市と協議を行っているところです。会員園の皆様方には撤回要望の署名等のご協力をいただいております。あらためまして御礼申し上げますとともに今後ともご協力ご支援の程をよろしくお願いいたします。

副理事長あいさつ

西新保育園 園長 浦谷 富士子



若葉から青葉へと木々の葉の繁りが濃くなり、子ども達の笑顔が園内に満ちあふれています。

この近年懸念されておりました子ども子育て支援新制度が、平成27年4月1日スタートしました。保育園の運営・仕組みが大きく変化していく中、どれ程子どもたちの育ちに影響を与えるか模索しながら業務に取り組んでいきます。一抹の不安と杞憂が胸中をよぎります。子どもの出生率は相変わらず減少を続けていますが、福岡市は九州随一の都市であり、人口は百万人を超して待機児童解消の政策がされています。しかし、いずれ淘汰される時期が訪れ、子どもの出生減少による諸問題の対策に取り組む時を迎えるようになります。このような変遷の時期に福岡市保育協会副理事長を拝命

し、その責務の重要な立場について認識を新たにしております。福岡市保育協会は福岡市の保育行政と表裏一体関係を保ちながら本年度で51年目となります。その間、民間保育園は母親の就労の保障と子ども達の心身の発達保障の為、保育実践を行い、子ども達の育成に全身全力をそそぎながら、喜びも悲しみも共感し、無上の幸せを感じながら、福岡市行政と共に歩んできました。

子どもの最善の利益の追求のため、良い保育環境を樹立することは、福岡市の都市発展の為の重要課題ではないかと痛感します。「子どもたちに光あれ」と、古賀理事長を補佐しながら、心から誠心誠意尽力することを就任にあたりましてごあいさつ申し上げます。

副理事長あいさつ

野方保育園 園長 篠原 敬一



福岡市は新制度移行後も、児童福祉法第24条第1項で直接的に保育の実施義務を負っており、福岡

市が就学前の子どもの養護と教育を私立保育園に委託していることは変わりません。新制度においても、福岡市と保育協会は、手を携えて保育の質の向上とそれを支える保育所職員の処遇改善に努めていかねばなりません。

ところが、福岡市から、下記の2つの提案がありました。

- ①新制度においては、延長保育基本分として措置されていた常勤職員1人分に相当する費用(約460万円/園)が委託費の基本分に組み入れられる。そこで、福岡市基準で支給してきた延長保育基本分(120万円/園)と福岡市単独補助金の長時間保育手当(約200万円/園)を削減する。
- ②福岡市包括外部監査で、実質的には給与の上乗せであると指摘された研修費(32万円/園)と被服手当(約13万円/園)についても委託費の中に含まれるので削減する。

国は、新制度の施行により、保育士等の処遇を改善し保育制度の充実を図り、来るべき少子化社会に対応しようとしています。そうした中で、福岡市の処遇改善補助金見直しは、国の動きに逆行するものです。職員の処遇改善の改善につながる長時間保育手当・研修費・被服手当の削減提案は何とか撤回していただかねばなりません。



福岡市保育協会理事會組織とメンバー



部長
志賀 孝司 瀬戸 栄子 増本 律秀 西村 洋子

研修部



部長
永野 繁一 堀内 勉 川崎 麻里

総務部



部長
山下 裕子 井上 正志
西尾 達 江崎 克己

広報調査部



部長
北園 雄二郎 古賀 一郎 宮岡 誠

予算運営管理部



福岡市私立保育士会は、昨年11月に「えがおふれあいまつりin警固公園」を行い、保育士の熱い思いを発信できました。ご協力ありがとうございました。ありがとうございます。

今年度は、全国保育士会を拠点としながらも、福岡市保育協会と連携し、「一人ひとりの子どもの最善の利益を尊重」「保護者とパートナーシップによる子育て文化づくり」

そして、「保育のプロとしての専門性の確立」に努めていきます。

特に、保育の質の向上のため、処遇改善もめざしていきたいです。

福岡市私立保育士会 会長挨拶 江口 裕子



二宮 清子 宮原 悦子 畠中 佐知子
局長
財前 美智子 兵藤 信彦

協会事務局



楠 峰光

監事



古川 保滋

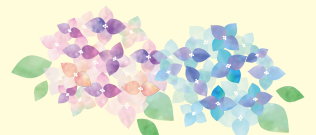
福岡市私立保育士会役員名簿(平成27年度)

会長	江口 裕子	(エミール保育園)
副会長(総務部)	安藤 ゆり	(筑紫ヶ丘保育園)
副会長(研修部)	牧野 千尋	(松原保育園)
副会長(広報・研究部)	高崎 真弓	(月のうさぎ保育園)
会計(総務部)	今林 優子	(奈多愛育園)
会計(研修部)	脇田 真理子	(若宮保育園)
会計(広報・研究部)	庄司 衣里	(白百合保育園)
補助金会計(補助金)	藤本 ルミ	(かなな保育園)
会計(補助金)	中尾 とめよ	(第2ひまり保育園)
企画(総務部)	伊藤 緩子	(のぞみ保育園)
企画(総務部)	寺坂 妃佐子	(白鳩保育園)
広報(広報・研究部)	有江 涼子	(信和保育園)
書記(総務部)	金野 彰子	(壱岐保育園)
書記(研修部)	前田 育枝	(さわら保育園)

庶務リーダー(総務部)	高倉 華代	(しあわせな木保育園)
庶務(総務部)	内山 佐智子	(正法寺保育園)
庶務(研修部)	尾崎 豊子	(仁愛保育園)
庶務(広報・研究部)	坂本 祐子	(たちばな保育園)
主任保育士研究会委員長	安本 菜美子	(みそら保育園)
給食検討委員会リーダー	仲西 里佳	(太郎保育園)
監事	田中美日	(西都保育園)
監事	荒川 英子	(光和保育園)



安藤ゆり副会長 牧野千尋副会長 高崎真弓副会長



保育士会のページ

お誕生会をしました

～内浜・信和・松翠保育園～



内浜保育園

内浜保育園のお誕生会をご紹介します。
お誕生月のお子様の保護者の皆さんにもご参加いただけるようにしています。

園長先生のお話からスタートです。次に一人の保育士が「絵の無い話」をし、それから誕生月のお友達を一人ひとり舞台上で紹介しします。毎月いろいろなやり方でかわいく登場し、マイクを持ってお名前や年齢などを発表します。ハッピーバースデーの歌をみんなでプレゼントした後は、先生たちからのプレゼントの時間です。先生たちがペープサートや手品などをするのもあれば、ゲストを呼ぶ月もあります。5月は「エコマザー」に来ていただきました。「地球が笑顔であるためには、水を流しっぱなしにしないこと、電気はこまめに消すことなどが大切」というお話をいただきました。最後は年長さんによる出し物です。5月は鍵盤ハーモニカで「山の音楽家」を弾いて聞かせてくれました。毎月頼もしい姿を見せてくれます。



信和保育園

社会福祉法人協和会
信和保育園は、早良区の南部に位置し、畑や田圃風景が広がるのどかな場所にあります。

近年、地下鉄七隈線が開通すると、田畑だった場所に、住宅が立ち並び、人口も増えにぎやかになってきました。

今回は、信和保育園の子ども達の様子をお知らせします。



この写真は、4月のお誕生会のもので、全クラス盛大に月に1度行います。特徴としては、保育士全員が普段とは違う服装になります（ジャージからスカートへ）。誕生者の保護者を招待し、誕生会終了後、給食を食べたり掃除をしたり...保護者も1日保育士になります。その他に、保育士と年長児が数名司会進行を担当します。

保育士と、打ち合わせを重ね、誕生者の名前を発表したり、カードを配ったり、保育士の出し物に参加し、一緒に劇をしたり...それはそれは、忙しく動きまわります。年長児は、自分の司会の月をとっても楽しみにしており、担当の保育士との話し合いも意欲的で、普段おとなしい子どももこの時はかりに、自分の案をだしたり、積極的に振る舞います。その他の特徴として、誕生者は、その日、「王様・王女様」になり、王冠をかぶって過ごします。他のクラスの友だちや、保育士から「お誕生日おめでとう」の言葉をかけられると、笑顔でいっぱいになります。もうすぐ、次の司会役の子ども達の練習が始まります。練習風景を見るのも楽しみみのひとです。



松翠保育園

みなさん、こんにちは。東区の松翠保育園の誕生会をご紹介します。

まずは元気に「誕生会の歌〜みんなさうって〜」から始まります。

そして今月の誕生児さんに保育士手作りの手ぶきタオルを5歳児さんがプレゼントします。「お誕生日おめでとう!!」の言葉が飛び交います。誕生児さんは気分も盛り上がり、「ニコニコ」です。

次はお祝いの演じ物です。今回は5歳児さんの劇遊び「ころの宝箱」でした。ひこひこつと年齢を重ねていく皆に大切にしたい事を伝える内容で、宝箱を開けると素敵な歌が聞こえて悪者の海賊が心優しくなるという物語です。その歌の1曲をご紹介します。

山の音楽家のメロディーで、
「私のころの 宝箱には
やさしい言葉が あふれているよ
使いましよ
話しましよ
応えましよ
交わしましよ
嬉しくなる」

この劇を練習している内に5歳児さんは挨拶や言葉は大事だなと感じてくれたようで、普段の生活の中でも「あ、今ありがとう」と言ったり「お話を聞かせてくれてありがとう」と話さずにはいられません。気づきのあった誕生会、この想いを広げていきたいと思っています。そしてお楽しみみの給食は端午の節句に合わせた鯉のぼりオムライスです。たくさん食べて、笑って、健康やかに成長して欲しいと願っています。



「さあ、子どもの話をしよう！」

青年部活動紹介

福岡市保育協会青年部は今年度八名の新入部員を迎え、総勢四十二名にて活動します。昨年度は『日々は保育く子どもを真ん中に』というスローガンを掲げ、保育新制度について四回の研修会を重ねました。また、四年目となる東日本大震災被災園支援も行い、岩手県内四ヶ園を訪問し「夏まつり」をテーマに設定保育を行いました。

今年度は新たなスローガン、『さあ、子どもの話をしよう！』のもと、新制度になり園児を取り巻く環境を更により良いものへとするために、私達青年保育者に何が出来るのだろうかを常に考えながら研鑽を重ねます。毎年行っている震災被災園への訪問も八月に計画しており、復興道半ばの保育園へ元気を届ける予定です。また、本年は青年部設立三十周年を迎える年となり、十一月に記念式典を行う予定にしています。先輩方が築いたものを、次の保育を担う若手保育者に繋げられるような式典にしたいと思っています。

さて、去る四月二十八日に青年部総会を行い、その中で第一回研修会を開催しました。日本

保育協会青年部部长・吉岡伸太郎氏を講師に迎え『これからの社会福祉法人の行方』社会福祉法人制度の見直しについてという演題でお話しをしていただきました。

社会福祉法人
制度改革について

日本保育協会青年部
部長 吉岡 伸太郎



- 改革の視点
- ①公益財団法人等と同等以上の公益性・非営利性を確保する必要がある。
 - ②国民に対する説明責任を果たすことが急務。
 - ③地域社会に貢献することが社福の使命。

つまり、「公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人のあり方を徹底する」ということ。そのための改正案の一つが『評議員会』の必置化・議決機関化である。現在の保育園は、ほとんどが理事会だけで運営がなされているが、そこに評議員会を設置することで、法人のガバナンス強化を目的としている。社福が公平公正にやっているか評価される為には評議員会が必要かもしれないが、現在提案されている制度は重要事項の決議に関して理事会とのバランスが取れておらず、とても極端な感じを受ける。その他、法人の内部留保の問題や課税に関する株式会社とのイコールフットリングの問題もあり、社福を取り巻く環境は厳しくなっている。その中で今後、社福は今より更に法人運営の透明性を高め、地域に還元し地域に支持される姿を目指す事が求められている。この制度改革はまだ見直しの入り口なので、バランスのとれた制度になるように働きかけるべきである。



昨年は保育新制度に振り回された一年でしたが、それと同時に進行で制度改革が進められていきました。不覚にも、ここまで社福制度改革が進められているとは思いませんでした。吉岡先生のお話を聞いてみると、私たち保育園現場の意見や活動が国にどれほど理解され反映されたのか疑問を感じています。そもそも保育園はその存在自体が地域と密着していなければ成り立たず、今更地域への貢献や説明責任といわれても、どうすれば？と疑問を感じる方も多いと思います。ただ、改革の視点を考えてみると、社福に対する世間一般の見方は私達が考えている以上に厳しいように感じます。このギャップを埋めるために、今後私達青年保育者が何をしなければならぬのでしょうか。それは、今以上に地域と共に子ども達の育成環境を常に考え続け、私達の行っている保育を胸を張って説明できるように精一杯努力し続けていくしか道はないのではないかと思います。



青年部懇親会の様子



東日本大震災被災園支援の様子(岩手県 大槌保育園)

NEW!! 新園紹介

高宮くすくすの丘保育園

園長 梅原 眞理子

定員 110名

平成26年12月、南区高宮に開園致しました社会福祉法人実教そよかぜ福祉会高宮くすくすの丘保育園です。

当園は、高宮の閑静な住宅地の高台にあり、東南に開けた園からは遠く三郡連山から昇る朝日を臨み、市の保存樹の大きな楠がやさしく子ども達の成長を見守る緑豊かな場所です。

「主のこどもたち」に、温かな心地よい育ちの場を「を理念に子ども達が未来に向かってくすくすへと幸せを感じながら、自分を信じ成長してゆけるように、明るく、やさしく、生き生きと望ましい未来を作り出す力を持った子ども達を育成します。毎日、子ども達が五感を使って、楽しく集中して遊び、学び、キラキラと輝いた瞳があふれるように、環境を整え、一人一人の子ども達の声に耳を傾けて向き合い、子ども達の成長を保障できる保育に職員一同努力して参ります。



森のおうち保育園

園長 角 たか子

定員 60名

平成27年4月、福岡市中央区小笹3丁目、認可外保育施設「愛光こども園」から認可移行し、定員60名の社会福祉法人レムニスカート「森のおうち保育園」を開園いたしました。住宅街の中にある二階建ての木々の香りと温もりを感じさせてくれる気持ちの良い園舎は、光を取り込まれるように設計されていて、ホールにあるステンドグラスが虹色の光で照らしてくれています。

一人一人と向き合い、0歳から6歳までの乳幼児期は生きる礎が育まれる最も重要な時期と考え保育を行っています。

天気の良い日には園庭や近くの公園で想像力豊かに遊び、室内では筆ろく粘土や水絵、クッキングなど日々の活動を集中して遊び楽しむことを目的にしています。一人一人が伸び伸びと過ごし、健やかな体と豊かな心を持ち、自分で考え行動出来る大人になれるよう見守っていきます。

これから地域の皆様に見守っていただきながら、職員一同、一丸となって全力で保育に取り組みたいと思っています。皆様ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



きぼうの森保育園

園長 内野 千春

定員 110名

社会福祉法人森友会は、平成十三年に大分市の認可を受けスタートしました。以来、大分に三園、東京に七園、福岡に二園と、待機児童解消のために邁進しております。きぼうの森保育園も、平成二十七年四月に、福岡市東区に新園として開園いたしました。我が園は0、1歳児、2、3、4、5歳児の縦割り保育を行っており、部屋は各年齢別の区切られた保育室ではなく、ゾーンによって構成された保育室になっております。

「すべての子どもの最善の利益のために」を理念とし、すべての子どもが、今の生活が幸せだと思ってくれ、今が生き生きとしていて、充実している、喜びがある、そういう日々をつくるために保育に取り組んでおります。また、子どもの心の成長は、大人が子どもの意思を大事にするような育て方をし、子どもの気持ちを受けとめ、子どもを愛することによって心の中に蓄積されるものだと考えております。

一人一人を大切に考えた保育に心がけることはもちろんですが、保護者、地域の方々とも連携をとりながら、地域に根ざした保育園でありたいと思っております。



春の叙勲 受章

祝 瑞宝双光章



松月保育園 理事長・園長 阿刀 恵美子

この度の叙勲により瑞宝双光章をいただき、身に余る光栄と感激にひたっております。

戦後昭和23年4月より保母として保育にたずさわり67年の月日を経て今日に至り、その間時代の変遷とともに保育の諸問題も大きく変わってきました。その当時から卒園生も立派に成人して、それぞれ社会に貢献しており本当に嬉しく思います。

現代の子供たちの将来の幸せと成長を願い、健康第一、気力、意欲、絆を大事に可能な限り保育の道に進みたいと思っております。

祝 瑞宝単光章



中央保育園 園長 伊賀 章子

この度、瑞宝単光章を受章でき、大変嬉しく思います。

長い間、保育者として働いてこれたのも、多くの方々への支えがあったからと感謝申し上げます。

ひかりでは保育士として、新星では主任、やまびこと中央では園長として多くのことを学びました。この経験を今後の保育に生かしていければと思っております。

おめでとう ございます

リレー回想 「四十二年間の歩み」

隅田保育園 園長 木林 純子



私は昭和四十七年に保育母になり（当時は、そう呼ばれていました）、右も左もわからない一年生保育母で、保育をしている実姉から「子どもが見えていない」「技術的にまだまだ」などよく叱られました。そんなスタートを切ったあつと言つ間の四十二年でした。

過去の「リレー回想」では、大半の方が一つの保育園で長くやっつてこられて、園の歴史がご自分の歴史といった感じの方が多いと思います。しかし、私の場合は実家が保育園という訳でもなく、最初に務めたのは実家の近くの町立保育所でした。ここで三年三か月務め、福岡市内のいずみ保育園で一年十か月務め、ここでは結婚と出産がありましたので止む無く短い勤務となりました。その後昭和五十四年四月より、五十川保育園で勤務することになりました。五十川保育園は、昭和五十三年に開園致しました。昭和四十年代の後半から五十年の半ばまで福岡市は、

ゴールドラッシュユならぬ保育園ラッシュユでした。「ポストの数ほど保育園」というスローガンの下、たくさんの保育園が建設されました。「福岡方式」と呼ばれ、市の土地を無償貸与され、社福がその土地に保育園の施設を建設しました。保育に情熱を抱く人達にとって良いシステムでした。全国でもこの福岡方式は、注目されましたが、この無償貸与の制度も平成二十五年に幕を降ろしました。

私は、この五十川保育園に二十二年五か月務めました。三十二年で園長に就任しました。世間知らずの若僧でしたので怖いもの知らずで、様々なことにチャレンジしました。「人生の知恵は幼稚園（保育園）の砂場で学ぶ」と言わ



五十川保育園にて園長になって初めての運動会あいさつ（32才）

れますが、私は保育者としての知恵、知識をここで学びました。福岡市内の園数も当時は、現在のように大所帯ではありませんでしたので、公立、協会、保育士会、青年部一体となり、九電体育館に於いて、各区対抗の運動会や、男性は蝶ネクタイ、女性も少シドレスアップしてのダンスパーティなど様々な楽しいイベントも行われました。

平成十三年に法人の都合により東区の香住ヶ丘保育園に転動しました。この頃になると保育界も少シずつ変化を見せ始め、少子高齢化にもかかわらず、待機児童が増加する問題が発生し、再び保育園建設ラッシュの波が押し寄せ始めました。

香住ヶ丘保育園でも四月に入所できない児童が年度によっては、三十人程出ていました。と同時に公立の民営化が始まりました。平成十七年民営化第一号がスタートし、その後毎年一〜二カ所ずつ民営化されました。

第一号の民営化保育園は、保護者の反対運動などもあり、相当ご苦労されたようです。私は、四番目の民営化に応募しました。まだ反対運動の名残りはありましたが、先に民営化を受けられた先生方の、並々ならぬご努力と地域の

方々の暖かいお心もあり、多少のバッシングはあったものの、スムーズに移行ができたのではないのでしょうか。翌年には市の方針が変わり、民営化の作業も一年間ストップしましたが、さらに一年後には再び始まりました。

この様な経緯の中、平成十九年四月に社会福祉法人福笑会隅田保育園が誕生しました。中に入ってみますと、今までやってきた三十三年の保育とは全く異なった、魅力的保育がここにありました。三笠川があり、竹の子山があり、畑があり、伝承遊びがあり、まさに「隅田町がらゝあったかいんだからゝゝ」なのです。

この公立時代の保育や地域環境に、私が今までやってきた音楽、体育、徳育、おもいでづくりをコラボさせるともつといい保育にできると確信しました。職員もいまままで一緒にやって来た同志が手伝ってくれたこともあり、予定より早く形が整いました。加えて給食の職員も管理栄養士を採用することにより、食育と保育がうまく融合しました。

平成二十六年からは、小規模保育事業を開始しました。これも地域の方から、借家をお借りすることができました。平成二十七年には、さらに、もう一軒お借りし



て、一才児八名の部屋を増設しました。

思い起こせば九年前に民営化を受けて、一からスタートと思っていきましたが、この地域で暮らしていると、昔からここで暮らしていた様に、地域の方と「親戚？」と錯覚を起こすくらい、すっかり溶け込んでしまいました。「隅っここの隅田保育園」ではありますが、これからも地域密着型の保育に取り組んでいくつもりです。気力、体力の続く限り。

今旬 体験型保育

めぐみ保育園 副園長 本田 陽介

発見は学びの種

めぐみ保育園の田んぼ（サトイモ畑）もありません。は、保育園より30分ほど歩いた羽根戸というところにあります。そこで5月から11月までの間、稲の種まきから収穫のすべてを体験しながら、アイガモ農法での米作りを行っています。収穫したものは全て11月の収穫祭や給食などで、子どもたちや保護者で食べてまいります。



田んぼで子どもたちはイキイキと遊び、普段の園生活と違った感動を味わっています。田植えの場面ではただ苗を植えることだけでなく、水や泥の温度、土のにおい、苗をちぎる力加減、風の感触、水の音、見上げた時に見えた



山の姿など様々な発見を繰り返すし、その「未知のものを発見する喜び」が就学後の学習への意欲へとつながります。

理解するための体験

「アイガモの役割」や「植物の生長のメカニズム」等の、少し込み入った内容を伝えようとするとき保育者は苦勞します。アメリカの心理学者ゲゼルは、「4歳児とは77までの数字を口で言えるのに、実際は4までしか数えることができない」と表現しています。



「いただきます」と毎日何気なく言っていることが、「命をいただく」という意味にまで深まるには何が必要なのでしょう。

体験を理解の土台とすれば、子どもたちの素朴な理解は育まれ、少しずつ効果が表れます。今年5歳児は0歳の時から田んぼでの活動に慣れてきました。先日給食を食べていた5歳児が弁当箱のごはんを指さし、「このごはんを早くとお米になるの？」と質問してきたことがあります。子どもの中で理解の種が芽吹いてきていることに驚きました。すぐに目に見える変化や理解は現れてきませんが、体験を積み重ねることで、素朴な理解が深まっています。

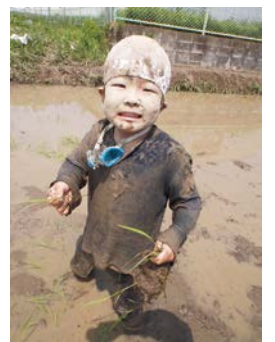
命と自然の体験

私たちは他の生き物の命をいたでいて生きています。その「育てて食べる」営みは、生活の一部だったはずですが、現代では意識することは少なくなっています。人は自然と共に生活していました。収穫物の命に寄りそうことで、感謝する心が子どもたちの中で育っています。



体験が教えること

代かきの時に5歳児から「せー！田んぼってあったかくてヒヤッとする。寒いけど暖かいね。」と言われたことがあります。意味が分からなかった私は



「そうだね」としか答えられませんでした。初夏とは言え、6月はまだまだ水に濡れながらの活動には少し寒いですが、田んぼの泥の表面は初夏の日光を受けて温かく、深くなるにつれ冷たくなっていきます。後から考えてみると、太陽の温かさ、水の冷たさなど温度の違いを繊細な子どもたちの感覚で表現したエピソードだと思います。

体で感じたことは子どもの中にしっかりと染み込み根を張ります。それが蓄積し記憶となり、彼らの原風景となっていくでしょう。卒園して何年もたった子どもにも出会ったときに、話になるのはアイガモのことや田んぼのことです。私は一部の卒園児から「アイガモの先生」と呼ばれます。子どもたちの中に少しでも何か残すことができたと思うと、とてもうれしく感じます。



編集後記

長時間保育手当と被服・研修費の予算執行が4月から停止しています。今年1月、突然福岡市から提案され、現在まで協議を重ねてきました。福岡市は「被服・研修費は包括外部監査の指摘により削減する」と言っているのですが、包括外部監査を担当した弁護士は、「使われる用途がはっきりしているのであれば問題は無い」と明言しています。長時間保育手当の問題は少し複雑です。「新制度における定額格の中に含まれる」というのが福岡市の主張です。しかし、国は「全国的に保育園が1時間認定に係る保育士を配置すること」と、自治体向けFAQ第8版で述べています。今回の制度改革は保育士の質と量の向上を目指すものです。保育士1人の人件費が確保されることは、保育園にとってこれほどありがたいものはありません。それなのに、保育園職員は一人一人の賃金に上乗せされていた長時間保育手当を廃止するというのは、納得できません。国は、「これまで各自治体で取り組んできた単独政策について、引き続き充実に取り組んでいただくようお願いする」と保育士の処遇をよくするために出していた補助金をやめることがないよう指導しています。6月1日発行の「市政だより」には、「子育てしやすいまち・ふくおか」の特集でした。3ページにわたって、福岡市は「子育てをいかに応援しているかが書かれていました。保育士の処遇の低下（ひいては保育の質の低下）に直結する長時間保育手当の執行停止を行いながら、このような特集を出すというのは、私には、ブラックジョークとは思えません。（西尾）



上段左から春田、高田、川崎、有江、江崎
下段左から山下、本田、西尾、井上